

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立北野中学校

4月16日に本校3年生を対象に文部科学省によって実施された「全国学力・学習状況調査」の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。本調査は、「国語」「数学」「理科」「生徒質問紙」からなり、学力だけでなく生活習慣との関係なども調査されました。

■調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

■本市の調査結果

京都市は、国語・数学・理科ともに全国平均正答率を上回り概ね良好な結果となりました。また、本校におきましても、3教科ともに京都市平均よりも上回る結果となりました。

以下に、各教科や生徒質問紙の内容を分析した結果を紹介いたします。

【国語】

評価の観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」であり、問題の形式は「選択式」「短答式」「記述式」である。本校の平均正答率は、全体として全国および京都府平均よりも少し高いが、領域や問題の形式によって、苦手な部分が見て取れる。

〔設問別分析〕

・「話すこと・聞くこと」の正答率は全国および京都府平均よりも高く、定着度が高い傾向にある。「読むこと」に関しては全国平均をやや上回る程度であるが、「書くこと」に関してはやや下回っている。
・正答率で全国平均を下回ったのは「文章の構成や展開について、根拠を明確にして自分の考えと理由を書く」「手紙の下書きを見直し、誤った漢字を修正する」「手紙の下書きを見直し、必要な部分を修正し、その理由を書く」という3つの設問であった。ここから、自分の意見や考えを述べる際に根拠や理由を組み合わせて答えること、文章を書くことや推敲することを苦手としていることが見て取れる。改善策として、「読書の機会を増やし、美しい文章に触れる」「自分の考えを文章にする」「お互いの文章を読み合い、学習をもとに推敲する」活動を増やしていきたい。

〔生徒質問紙の項目〕（「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒）

| 「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」生徒 | 北野中学校 | 京都府 | 全国 |
|-------------------------|-------|-------|-------|
| 国語の勉強は得意ですか | 33.7% | 47.0% | 51.4% |
| 国語の勉強は好きですか | 41.0% | 53.9% | 57.9% |
| 国語の授業の内容はよく分かりますか | 69.5% | 74.0% | 77.0% |

| | | | |
|---|-------|-------|-------|
| 国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか？ | 89.4% | 87.6% | 88.3% |
| 国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか。 | 68.5% | 72.0% | 74.0% |
| 国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の立場に立って読み直し、語句の選び方や使い方、文や段落の長さ、語順などが適切かどうかを確かめて文章を整えていますか。 | 69.5% | 71.8% | 73.6% |

「国語の学習が社会で役立つ」と考えてはいるが、「得意」「好き」と感じられる生徒が少ない。必要性を感じている教科から前向きな姿勢で学びを得ることは、社会においてどのような場面で役立つかという具体的な発想へと繋がることが考えられる。その発想を促すために、活動の方法を工夫していくとともに、それぞれが「できた」と実感できるような取組や発表の場などを増やしていきたい。

【数学】

令和7年度の調査においては、出題の領域が「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」であった。また、評価の観点も「知識・技能」、「思考・判断表現」であり、問題形式は「選択式」、「短答式」、「記述式」であった。

正答率は、すべての領域で全国平均を上回っており、いずれの観点も全国平均を上回っていた。

全国平均より正答率が低い問題は、「素数の意味を理解しているのかどうかを問う問題」、「一次関数について、変化の割合から x の増加量に対応する y の増加量を求める問題」の2問であった。

記述式の正答率は全国平均より6%以上高いが、不十分さを感じる。問題文をよく読み説明できることが課題として挙げられる。

授業においては、自分の苦手を見つけ、それに向かって学習をする力を育てたり、グループ活動の時間を効果的に取り入れたりすることで、これらの課題解決を図りたい。

〔生徒質問紙の項目〕 （「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒）

| | 北野中学校 | 京都府 | 全国 |
|------------------------------------|-------|-------|-------|
| 数学の勉強は得意ですか | 42.1% | 47.0% | 46.0% |
| 数学の勉強は好きですか | 44.2% | 52.7% | 53.8% |
| 数学の授業の内容はよく分かりますか | 64.2% | 72.4% | 70.3% |
| 数学の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか | 63.2% | 74.2% | 75.2% |

数学の勉強は得意・数学の勉強は好き・数学の授業の内容がよくわかるの項目に「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は全国平均に比べると少ない。しかし、正答率について全国と比べると本校のほうが高い数値を示していることから、本校の生徒は様々な問題に向き合っており、自分なりに解こうとする粘り強さが身に付いていることが分かる。今日の前にある数学の問いだけでなく、思考のプロセスや学習内容は将来社会に出たときに役立つということの実感を持たせることを、今後授業の中で意識していきたい。

【理科】

令和7年度の調査においては、「エネルギー」を柱とする領域、「粒子」を柱とする領域、「生命」を柱とする領域、「地球」を柱とする領域から出題され、問題形式は「選択式」「短答式」「記述式」であった。また、評価の観点も、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つであった。

正答率が最も高かったのは「エネルギー」を柱とする領域の「ストローの太さと音の高低」に関する情報を収集してまとめを行う学習活動の場面で、収集する資料や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題であり、最も正答率が低かったのは、「大地の変化」について、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討して表現できるかどうかをみる問題であった。

【生徒質問紙の項目】（「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒）

| | 北野中学校 | 京都府 | 全国 |
|------------------------------------|-------|-------|-------|
| 理科の勉強は得意ですか | 45.3% | 48% | 50.7% |
| 理科の勉強は好きですか | 50.5% | 60.1% | 63.8% |
| 理科の授業の内容はよく分かりますか | 67.4% | 70.7% | 71.4% |
| 理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思いますか | 52.6% | 62% | 63.4% |
| 将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか | 22.1% | 20.9% | 21.7% |
| 理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか | 36.9% | 48.4% | 50.7% |
| 理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか | 81.1% | 80.6% | 85.8% |

「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」という質問に対して肯定的な回答の数値は2割程度と低く、全国平均に対しては少し上回る程度であった。このことから、日常生活と理科の授業をさらに関連付け、理科や科学技術のおもしろさや可能性を知り、この分野が日常生活の利便性に大きな影響を与え続けていることを実感することが必要だと考えられる。そのために、実物に触れる機会である観察・実験を多く取り入れ、自ら考える機会を増やしていきたい。

【生徒質問紙】

<生活面>

◇規則的な生活への意識が高い

「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」といった項目での肯定的な回答は京都府、全国とほぼ同じ割合で8割を超え、生活習慣を整え、規則正しい生活を心がけている様子がうかがえる。

◇読むことは好きな生徒が多い

「新聞を読みますか」「読書は好きですか」の項目への肯定的な回答は全国を上回っていた。朝読書では静かに集中して読んでいる姿が見られることから、文字を読むことで自分の創造力を膨らませることが好きな生徒が多いことが分かる。

◆休日の学習時間が少ない

「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という項目は、全国・京都府平均よりも低い結果だった。平日はそれほどでもないことから、特に休日の学習時間を確保していく必要がある。休日の学習時間を確保するために必要なことの一つは、将来の夢や目標である。「将来の夢や目標を持っていますか」といった項目への肯定的な回答は京都府、全国とほぼ同じ割合で6割程度だったことから、将来についての具体と学習を結び付けること、または将来への夢や目標が見いだせていない生徒に対して、様々な学習や体験の機会によって展望を得るきっかけとしたい。そして、粘り強く継続的に学習に取り組めるような姿勢を養っていききたい。

<学校生活面>

◇良好な人間関係を築き、安心した学校生活を送っている

「学校に行くのは楽しいと思う」「友人関係に満足している」という項目への肯定的な回答は、京都府、全国を上回って9割を超えた。また、「困ったときに先生や学校の大人にいつでも相談できますか」「先生はあなたのいいところを認めてくれていると思いますか」の項目への肯定的な回答も同様に、京都府、全国を上回って9割を超えたことから、周囲の人と安定した信頼関係を築き、安心して学校生活を送っていると考えられる。

◆自信をもって、自分に良いところがあると答えられない生徒の割合が少ない

「自分にはよいところがあると思いますか?」という項目への肯定的な回答は、京都府、全国とほぼ同じ割合で、「そう思う」の回答の割合は少し下回ったものの、「どちらかといえばそう思う」の割合が上回ったことから、自信をもってそう言いされる生徒の割合は少ないことが分かった。今後の学校生活や、人とのかかわりの中で、自信をもって「そう思う」と言えるような働きかけや取り組みを行っていききたい。

<学習面>

◇学びあいなどの学習活動の中で、視野を広げたり、人間関係を築いたりしている

「自分の考えを深めたり、グループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」という項目への肯定的な回答は、京都府、全国平均を上回っていた。各教科や、道徳、総合でも同様の結果が見られることから、学習の様々な場面で人と関わり、自分とは違う価値観に触れ、そのことを肯定的に受け止めている様子がうかがえる。自分と意見の違う人を認めたり、一緒に協力できたりする力は、とても大切な力である。今後も、その力を伸ばせる場面を多く作っていききたい。

◆学んだことを実生活へ生かせていない

「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができていると思いますか」の項目への肯定的な回答は京都府、全国の割合を下回り7割弱だった。このことから、学習に苦手意識を抱いている生徒が少なからずいることが考えられ、今後は、学習と実生活を結び付けて考えることができるような授業計画や学習機会を設定していく。